



小山地域 まちづくり提言書

平成20年5月

小山地域まちづくり会議

提言にあたって

私たちの小山地域は、相模総合補給廠が中央部から東部にかけて大きく占めており、南部の相模原駅南口には商業地が、西部には住宅地と工業地が、町田市と隣接する北部には宅地と農地が形成されています。

相模総合補給廠は、戦前においては、旧日本陸軍相模陸軍造兵廠として使用され、昭和24年の米軍による接收後は在日米軍陸軍の主要な補給基地として役割を担ってきました。

JR横浜線相模原駅から矢部駅までの北側の214.4haを有する相模総合補給廠は、小山地域の約半分の面積を占めており、自動車や歩行者の通行、人々の交流などを分断し、小山地域のまちづくりと発展の大きな障害要因となってきました。

この度、相模総合補給廠の一部返還が決定したことにより、新たな小山地域を創造する絶好の機会が巡ってきたものと認識するとともに、新しい総合計画及び新都市計画マスタープランの策定にあたって「小山地域まちづくり会議」を組織し、地域住民が未来永劫、快適に、そして安心して暮らせるよう、多くの方から意見をいただきながら議論を重ね、提言書をまとめました。

この提言書は、相模原市全体の発展のためにも重要なものであり、様々な計画の策定に生かしていただくようお願いいたします。

平成20年5月

小山地域まちづくり会議

会長 岸 久 夫

目 次

1 地域の現況と課題	1
2 重点提言項目(地域重点方策)	2
3 分野別のまちづくり提言	4
(1) 相模総合補給廠	
(2) 都市基盤・交通	
(3) 安全・安心	
(4) 健康・福祉	
(5) 教育・文化	
(6) 自然・環境	
(7) 商業	
(8) コミュニティ・その他	
4 提言図	13
(付属資料)	
* 会議経過	14
* 委員名簿	15

1 地域の現況と課題

小山地域は、ＪＲ相模原駅を有し、市役所など多くの官公署への玄関口として発展し、本市の拠点の一つとして位置付けられています。

しかしながら、ＪＲ相模原駅から矢部駅までの北側に広がる相模総合補給廠は、小山地域のまちづくりに大きな制約を課してきただけでなく、相模原市全体のまちづくり、都市づくりの大きな支障となってきました。

具体的には、東京都心へ直通する公共交通機関がない、東京都に抜ける幹線道路の整備が遅れている、ＪＲ相模原駅北口の活用が制限されている、老朽化した公民館を再整備するための土地がない、地域の大きな行事を開催する場所がないなど、様々な課題が解決できずにいる状況です。

このような状況の中で、平成１８年５月に相模総合補給廠の一部返還が決定したことを受け、「住みよい小山をつくる会」が多くの住民の意見を踏まえた中で、相模総合補給廠の跡地利用について平成１９年３月に「相模総合補給廠一部返還に伴う跡地利用に関する意見書」を取りまとめました。

この意見書を実行することにより多くの課題は解決できますが、そのほかにも、高齢社会への対応、安全で安心できるまちづくりなど、地域として取り組むべき課題は山積している状況です。

2 重点提言項目(地域重点方策)

本地域は、次の5点を重点的な提言とします。

(1) 相模総合補給廠の返還と跡地利用による新たなまちづくり

市是でもある相模総合補給廠の返還については、第一段階として早期に一部返還と共同使用を実現するとともに、全面返還に向けた交渉を粘り強く継続していく。

また、跡地利用については「住みよい小山をつくる会」が作成した「相模総合補給廠一部返還に伴う跡地利用に関する意見書」を基本に捉え、小田急多摩線のJR相模原駅への延伸、商業施設や道路などの整備を進め、交流拠点とする。

(2) 円滑な交通ネットワークと良好な住宅地のまちづくり

相模総合補給廠の一部返還に伴い小田急多摩線のJR相模原駅までの延伸を実現するとともに、JR相模原駅から矢部駅までの線路北側道路や小山地域と東京都とを結ぶ新たな幹線道路の整備を進める。

また、小山地域の交流を分断しているJR横浜線については高架化を含めた検討の中で、立体交差化を進める。

なお、懸案である宮下地区の生活道路の整備については、多様な手法を検討した中で、良好な住宅地の形成を図りながら進める。

(3) コミュニティの力で実現する安全で安心できるまちづくり

地域のコミュニティの中心である自治会活動を一層充実するため、活動拠点の整備を進めるとともに、自治会の加入率を向上させる。このことにより、子ども会や老人クラブの活動の活性化への相乗効果を図る。

また、宮下地区に警察施設を整備するとともに、地域コミュニティが有機的に連携した中で子どもたちの見守りをするなど、犯罪のない安全で安心できるまちづくりを進める。

(4) みどりに囲まれた良質な環境のまちづくり

子ども達が元気に遊べ、高齢者が憩え、地域のコミュニティの輪が広がる、みどり豊かな公園・広場を整備する。

また、境川やその周辺の自然環境を保全した中で、公園や遊歩道を整備する。

なお、駅周辺やごみ集積場におけるごみによる住環境の悪化を改善するため、環境保全に関する意識の高揚を図る。

(5) 誰もがいきいきと暮らせるまちづくり

小山地域では、公民館を活動の拠点としている団体が多く、一層の活動を促進するために、音楽活動やスポーツ活動もできる施設を整備する。

また、高齢者やボランティアが気軽に利用できる施設を整備するとともに、子どもを安心して産み、育てることができる環境づくりに努める。

3 分野別のまちづくり提言

(1) 相模総合補給廠

分野別課題

長年の懸案事項であった相模総合補給廠の返還については、今回の日米合意により、JR相模原駅北口駅前の土地約15ヘクタールと鉄道・道路用地約2ヘクタールが返還されるとともに、西側野積場約35ヘクタールが共同使用できるようになりました。

今後は、早期に使用できるよう、日米両政府との交渉を精力的に続けることや返還後の跡地利用を具体的に調整し、あわせて小田急多摩線のJR相模原駅への早期延伸を実現していかなければなりません。

また、全面返還に向けた調整も大きな課題となっています。

提言項目

早期返還の実現と跡地の有効活用

ア 早期に一部返還と共同使用を実現するとともに、全面返還に向けた交渉を継続していく。

イ 跡地利用を検討するにあたっては、「住みよい小山をつくる会」が作成した「相模総合補給廠一部返還に伴う跡地利用に関する意見書」(以下、「意見書」という。)を基本に捉えて進める。

ウ 意見書に挙げた小田急多摩線のJR相模原駅への延伸、旧県道上溝立川線の整備、総合文化ホール・複合的商業施設・体育施設・行政施設・公民館・福祉施設・公園などの整備を進める。

エ 今後も広域避難場所としての使用を継続する。

オ 跡地利用を進めるにあたっては、子どもたちの通学路との分離や風紀を守るための配慮をし、交通量の増加などによる渋滞を引き起こさないように工夫する。

(2) 都市基盤・交通

分野別課題

J R相模原駅周辺を中心に、建築物の高層化が進み、既存の住宅地との調和が求められているとともに、東京都へ抜ける幹線道路の整備が遅れている宮下地区を中心に、歩道整備がされていない狭い生活道路への通過車両の流入が増え、地域住民の安全が脅かされています。

また、東京都心へ直通する公共交通機関がなく、J R横浜線により地域は分断され、地域住民は長い間、不便な状況を強いられてきています。

小山地域は、比較的平坦な地勢であるため、自転車を交通手段としている人が多く、歩行者と自転車との接触事故が発生しているほか、J R相模原駅周辺での放置自転車も多い状況です。

提言項目

快適な住環境の創造

ア 適正な用途地域への見直しと地区計画制度などの活用により、快適な住環境を創造する。

円滑な道路交通の確保

ア 都市計画道路宮上横山線や都市計画道路宮下横山台線など、幹線道路を整備する。

イ 坂本橋に歩道橋を整備し、車道と歩道を分離する。

道路拡幅による安全の確保

ア 宮下地区では区画整理事業などの面的な整備の手法を活用するなど、狭い道路の拡幅を進める。

イ スクールゾーンになっている道路を中心に拡幅整備を行い、歩道を設置する。

道路環境の改善

- ア 生活道路も含めて拡幅整備を行い、歩道、自転車道、車道の分離を進める。
- イ 歩道の整備ができない道路については、カラー舗装化により歩道の区分を進める。
- ウ 宮下地区を中心に、信号機、カーブミラーや標識の設置を進める。

交通利便性の向上

- ア 高齢者や障害者の利用に配慮したバスターミナルの整備と利便性の高いバス路線の充実を図る。
- イ 小田急多摩線のＪＲ相模原駅への延伸を早期に実現する。実現後は、上溝・田名方面への延伸を進める。
- ウ 相模総合補給廠の返還に合わせ、総合相模更生病院付近の踏切を整備する。
- エ ＪＲ横浜線の高架化、あるいは踏切の立体交差化を検討し、その実現を図る。
- オ リニア中央新幹線の新駅誘致について検討する。



ＪＲ相模原駅

駐車・駐輪環境の充実

- ア 駅周辺での違法駐車自転車の排除を進める。
- イ 駅周辺地域への買い物客などの対応を図るため、一時利用できる路上自転車駐車場の拡大及び新たな整備を図る。

(3)安全・安心

分野別課題

小山地域は、相模原市の玄関口としてのＪＲ相模原駅の南側に交番があるだけで、特に宮下地区方面においては警察による犯罪や交通事故の抑止効果は希薄となっています。

また、子どもの安全を確保するために、地域における見守りに取り組むにしても、子ども会を担う保護者の減少や退会などにより組織力が低下しており、地区によってはまだまだ暗い道があります。

災害時の対策として、非常用のトイレなどの自主防災用品が十分でなく、災害時の要援護者のリストづくりが進んでいない地区もあります。

提言項目

犯罪のないまちづくり

- ア 宮下交差点付近に交番または警察官立寄所の整備を進める。
- イ 児童や生徒の登下校時の安全確保のため、小山地域全体で組織的にパトロールの充実を進める。
- ウ 暗い道を優先し、防犯灯の高照度化を進める。

災害に強いまちづくり

- ア 非常用のトイレなどを含め、自主防災用品の充実を図る。
- イ 自治会と民生委員が連携し、災害時の要援護者のリストを整備する。
- ウ 自治会と民生委員が中心となり、地域全体で災害時の要援護者への見守りを強化する。

(4)健康・福祉

分野別課題

小山地域には多くの医療機関があるものの、昨今における社会問題の一つともなっている産婦人科医の減少が懸念されています。

また、高齢者や障害者が安心して、いきいきと生活していくためには拠点となる福祉施設が必要ですが、小山地域にはそのような施設はない状況であります。

そして、健やかに子どもが育つためには、子どもの遊び場も必要ですが、徐々に減少してきている状況であります。

提言項目

医療体制の充実

ア 子どもを安心して産むことができるよう、産婦人科の確保に努める。

誰にもやさしい福祉のまちづくり

ア 高齢者や障害者などが気軽に集まれる施設の整備を進める。

イ 地域の福祉活動の拠点を整備する。

子育て環境の充実

ア 子どもたちが安心して遊べる場所を確保する。



市民健康まつり

(5)教育・文化

分野別課題

小山地域における地域住民の活動の拠点である公民館は、利用者の増加に伴い手狭な状況となり、施設の老朽化も進んでいます。

機能的にも、音楽活動ができないなど、利用者のニーズの多様化に応えられるためには、現在の施設では難しい状況となりつつあります。

体育施設は、向陽小学校の屋内運動場を主に使用していますが、小学生の利用を中心にした施設の機能であるため、成人が使用するには小規模な施設であります。

提言項目

生涯学習機会の充実

ア 音楽活動のニーズにも対応するため、大音量にも対応できる防音設備を備えた施設を整備する。

イ 成人の活動に対応した体育施設を整備する。

ウ 青少年が気軽に集まれる多目的な施設を整備する。

エ 公民館の自転車駐車を再整備する。

オ 学習できる静寂な空間を公民館に設ける。



小山公民館

(6)自然・環境

分野別課題

ワンルームのアパートやマンションが増え、自治会に加入しない人が増えている中、ごみを出す際のルールが守られていない状況が増え、粗大ごみの不法な放置、資源ごみの持ち去り、駅周辺でのポイ捨てによるごみの散乱など、住環境を悪化させている状況が目立っています。

また、中心市街地に近い小山地域の特色として、広い公園がないなど、みどりが豊富な公園や散策できる公園がありません。

小山地域と東京都との境を流れる境川は、貴重な水辺空間ですが、その周辺を含めて活用は遅れている状況であります。

提言項目

良好な住環境の確保

- ア 自治会への加入促進とともに、ゴミの出し方に対する指導を進める。
- イ ごみの不法な投棄と資源ごみの不法な持ち去りを防止するため、看板を設置するとともに、パトロールなどによる監視を強化する。
- ウ ごみの個別収集や有料化などについて検討し、ごみの適正な出し方を推進する。
- エ ポイ捨て禁止条例（ごみの散乱防止によるまちの美化の推進に関する条例）の強化を含め、環境美化に努める。

みどりの保全と創造

- ア 相模総合補給廠の返還に合わせ、駅周辺にみどり豊かな公園を整備する。
- イ 子どもたちが遊べる身近な公園や散策できる公園を整備する。

水辺空間づくり

- ア 境川沿いにジョギングもできる遊歩道を整備する。

- イ 境川や周辺の自然の保全に努めるとともに、有効活用されていない土地を公園として整備する。

(7)商業

分野別課題

J R相模原駅は、相模原市の拠点駅の一つとして発展してきましたが、駅ビルや周辺の商業施設は、J R橋本駅や小田急線相模大野駅の駅周辺と比較すると、利用者や通行人が少なく、活気がない状況が見受けられます。

また、小山公民館周辺をはじめ、駅から離れると、コンビニエンスストアもない所が多い状況です。

提言項目

商業地域の発展

- ア 駅ビルや周辺の商業施設の機能などについて検証するとともに、魅力ある店舗の出店を促す。
- イ 高齢者が増える中で、住宅地の身近な場所での商店の出店を促す。



J R相模原駅 駅ビル

(8) コミュニティ・その他

分野別課題

小山地域は、コミュニティ組織の中心である自治会への加入率も比較的高く、自治会活動や地区の社会福祉活動なども活発ですが、一方でマンションが多い地区では自治会の加入が進んでいない地区もあり、高齢社会の進展とともに活動の参加者は減る傾向にあるとともに、役員の担い手が少なくなってきたり、子ども会などにおいても同様な状況です。

また、駅前の自治会が清新地域と小山地域に分かれており、自治会の規模が大きく異なり、地区によっては自治会館などの集会施設や老人クラブがない状況です。

そのほか、宮下地区には郵便局がなく、不便な状況が続いています。

提言項目

地域コミュニティの充実

- ア 自治会の活動内容を地域住民に周知するとともに、非常時におけるコミュニティの大切さの理解を促す。
- イ 自治会館などの集会施設がない地区において、施設の整備を進める。
- ウ あいさつが交わされる地域へとなるよう、自治会を中心にその実現を図る。

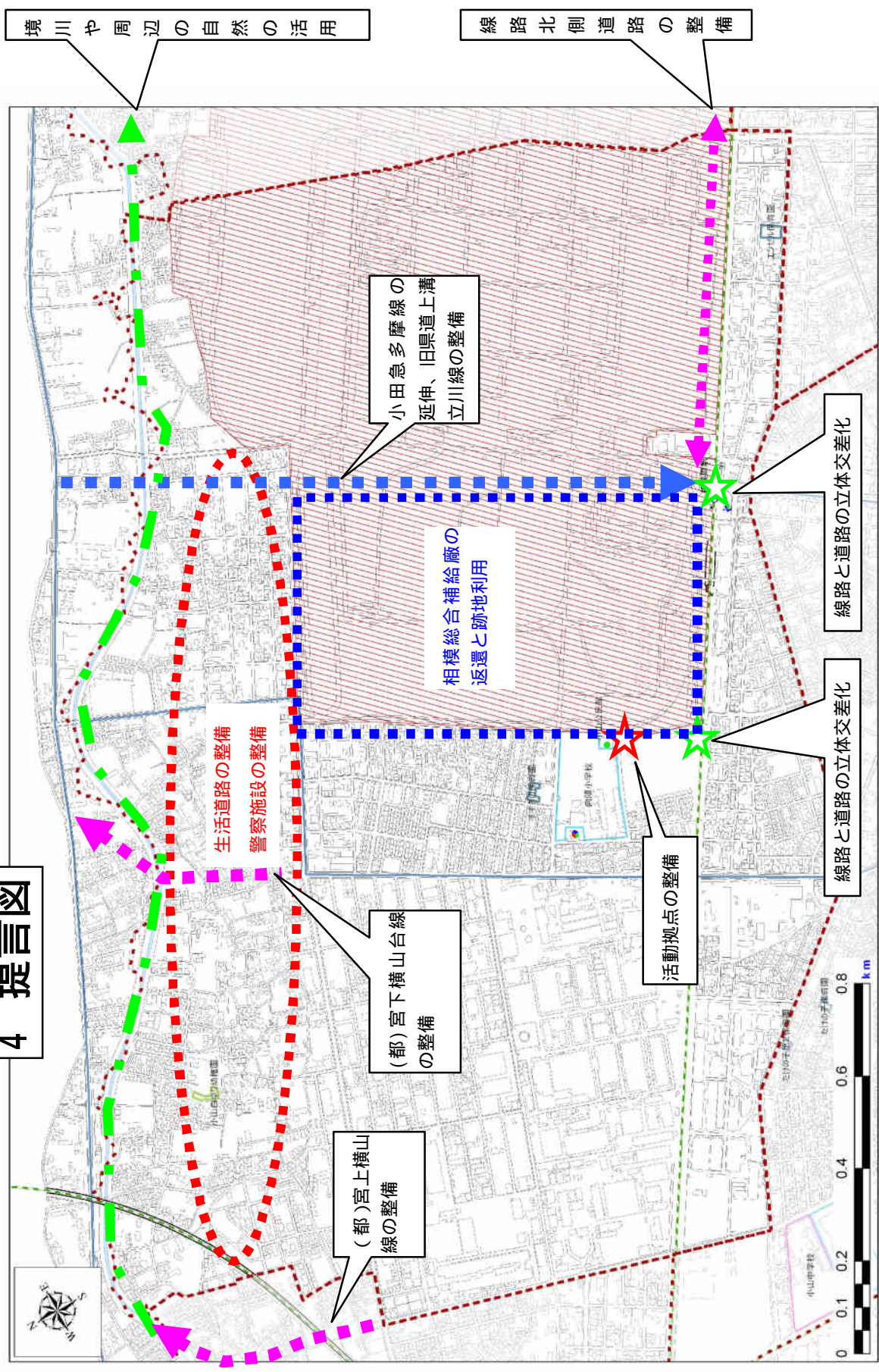


公民館まつり

生活の利便性の向上

- ア 宮下地区において、郵便局の開局を進める。

4 提言図



この提言図は、重点提言項目（地域重点方策）のうち図示できるもののみ表示しています。

(付属資料)

会議経過

日程	会議内容	委員出席数
平成19年 7月10日(火)	第1回小山地域まちづくり会議準備会 ・会則、公募方法等の検討	8名
9月5日(水)	第2回小山地域まちづくり会議準備会 ・会則(案)の決定等	4名
9月20日(木)	第1回小山地域まちづくり会議 ・会則(案) 役員の選出	17名
10月15日(月)	第2回小山地域まちづくり会議 ・地域の課題(良い点・悪い点)の抽出	12名
11月7日(水)	第3回小山地域まちづくり会議 ・地域の課題(良い点・悪い点)の抽出	14名
12月4日(火)	第4回小山地域まちづくり会議 ・地域の課題(良い点・悪い点)の取りまとめ	15名
平成20年 1月8日(火)	第5回小山地域まちづくり会議 ・地域の課題から見る重点提言項目の検討	15名
2月6日(水)	第6回小山地域まちづくり会議 ・提言書案の検討 ・地域説明会の日程	16名
3月7日(金)	第7回小山地域まちづくり会議 ・提言書案の検討 ・地域説明会の役割分担	18名
4月24日(木)	地域説明会 一般参加者17名	17名



第7回地域まちづくり会議



地域説明会

委員名簿

	氏名	選出団体	備考
1	岸 久夫	小山地区自治会連合会	会長
2	武井 弘吉	氷川町自治会	副会長
3	稲場 政子	小山公民館	副会長
4	久保田 昇	小山地区社会福祉協議会	副会長
5	石井 今朝太	宮下自治会	
6	渡辺 久次	向陽町自治会	
7	井上 和春	丸山自治会	
8	上野 義雄	すすきの自治会	
9	山口 勝雄	すすきの向陽自治会	
10	安藤 孝洋	久保原自治会	
11	手塚 淳	相模原駅前自治会	
12	櫻井 武治	東第一自治会	
13	登坂 善子	小山地区民生委員児童委員協議会	
14	大谷 久助	小山地区老人クラブ連合会	
15	長谷川 春夫	相模原駅前長寿会	
16	永富 多美子	小山地区健康づくり普及員	
17	穴戸 佳子	小山地区健康づくり普及員	
18	小宮 里美	小山地区子ども会育成連絡協議会	
19	高橋 靖	向陽小学校PTA	
20	贄田 栄一	小山地区防犯協会	
21	黛 和衛	相模原交通安全協会小山支部	
22	中里 和男	相模原西商店街協同組合	
23	廣田 武治	学識経験者	

(事務局)

企画政策課	長田 尚	山口 秀行	都市計画課	荻野 隆
市民協働推進課	遠藤 政明		小山公民館	浅野 信弘
高齢者福祉課	山口 正夫			